

母乳育児：命のゴールへ、会心のシュート！

2014年の世界母乳育児週間へようこそ！

ミレニアム開発目標(MDGs)は、各国政府と国際連合(国連)によって設定されたもので、その目的は、貧困への対策と健康的で持続可能な開発を包括的な方法で行い、それに対する評価を2015年までに行うことです。今年の世界母乳育児週間のテーマは、ミレニアム開発目標が現在、カウントダウンの段階に来ていることに呼応するものです。2015年以降の大切な議題として、母乳育児の保護、推進、支援をより広げ持続することの重要性を力説し、できるかぎりさまざまな年齢の人々やグループと協働したいと考えています。あなたがこのコミュニティにしようと、前に進むことは可能で、またそれを維持することもできます。そのためには、準備し、目標(ゴール)やターゲットを設定して、力を合わせ、そして行動することが必要です！母乳育児の保護、推進、支援……それはやってみる価値のある目標(ゴール)のひとつで、たくさんの命を救います！



世界母乳育児週間(WBW) 2014の目標

1

ミレニアム開発目標と、それがどのように母乳育児や乳幼児の栄養(IYCF)にかかわっているかを皆に知らせましょう

2

母乳育児と乳幼児の栄養に関して、これまでできたこと、そしてこれからやるべきことの中で優先することは何かということとを並べてみましょう

3

ミレニアム開発目標及び2015年以降の時代における重要な介入としての母乳育児の保護、推進、支援をさらに進めることの重要性に注意を喚起しましょう

4

今日の変りゆく世界のあり方にも母乳育児は関係があるのだということについて、若い世代の男女両方に興味を持ってもらいましょう



James Achanyi-Fontem (カメルーン)



Hospital San Antonio (チェコ)



Daksha Pandit - India (インド)



Charusheela Korday (インド)

母乳育児はミレニアム開発目標とどのように結びついているのでしょうか？

母乳育児を保護、推進、支援することにより、あなたはミレニアム開発目標の各項目に確実な形で貢献できることになります。最初の6カ月は母乳だけで育て、その後は十分な補完食を与えながら母乳育児を続けることは、子どもの生存率を改善する重要な介入であり、5歳未満の子どもの約20%の命を救う可能性があります。ミレニアム開発目標の各項目にどのように母乳育児が結びつくか見つけましょう！

写真は2014年の世界母乳育児週間コンテストの入賞作品
© 2014 Photographer and WABA. All Rights Reserved.

Join Us & Take Action NOW!

www.worldbreastfeedingweek.org

WABA • World Breastfeeding Week • 1-7 August 2014



1 極度の貧困と飢餓の撲滅

母乳だけで育て（[訳注]6ヵ月間）、2年かそれ以上母乳育児を続けることは、高品質な栄養と十分なエネルギーを提供し、飢餓や栄養不良を防ぎます。母乳育児は、乳幼児に栄養供給する自然で費用のかからない方法です。だれもが経済的負担なく手に入れることができ、人工栄養法に比べ家計に負担がかかりません。



2 初等教育の完全普及の達成

母乳育児と適切な補完食は学習するための基本的な準備となります。母乳育児と高品質の補完食は精神発達、認知能力の発達に有意に寄与し、そのことによって、学習する力を高めます。



3 ジェンダー平等推進と女性の地位向上

母乳育児はすべての子どもが公平で最良の人生を始めるためのすばらしい仕組みです。性別による成長の差のほとんどは、補完食が加わるにつれて見られますが、それは食事の内容に性差をつけることがこの頃に始まるからです。母乳育児は比類なき女性の権利であり、女性は母乳育児が最適に行われるよう社会から支援されるべきです。



4 乳幼児死亡率の削減

母乳育児の実践を改善すると、乳幼児死亡率は13%容易に削減できます。補完食の改善で、さらに6%容易に削減できます。加えて、5歳未満の死亡の50~60%は栄養不良と関連し、それは、不十分な補完食や不適切な母乳育児の実践から生じています。



5 妊産婦の健康の改善

母親の産後出血、乳がん、卵巣がん、子宮内膜がん、更年期後の骨密度の減少は、母乳育児を行うことで少なくとも考えられています。母乳育児は避妊や出産間隔をあけることに寄与し、妊娠間隔が接近しすぎることによる母親のリスク（たとえば貧血）を減らします。



6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

母乳だけで育て、母親と赤ちゃんに抗レトロウイルス薬を併用すると、母親から赤ちゃんへのHIVの移行が有意に減少します。もっと大事なことに、母乳育児はHIVに感染した赤ちゃんの死亡率を減らします。ですから、HIVに感染しないで生存する率を増やします。



7 環境の持続可能性確保

乳製品、薬剤、プラスチック、アルミニウム産業を必要とする人工乳の製造と比べ、母乳育児は廃棄物を減らすことにつながります。また、家庭での薪や化石燃料の使用も減らします。母乳育児により、私たちは、健康で、実行可能で、環境汚染をしない、資源を消費しない、持続可能で自然な、栄養と生命の糧を得ることができるのです。



8 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」は多部門の協調を助け、母乳育児と補完食のプログラムを通じて、発展を支援するためのさまざまなパートナーシップを築くことを可能にします。

ミレニアム開発目標に関するいくつかの事実

- ミレニアム開発目標は貧困に立ち向かい、健康で持続可能な開発を推進します。
- 2000年に、世界の指導者たちがニューヨークの国連本部に集まり、計画を進展させました。その計画はすべての国と指導的な開発機関が合意しました。
- 国と開発機関は自国が極度の貧困を削減することを誓約し、ミレニアム開発目標を8つ設定しました。
- ミレニアム開発目標の4、5、6は健康に関するものです。
- 2015年にミレニアム開発目標は各国政府が達成するように企図されています。2015年までの道のりは「カウントダウン2015」と呼ばれています。

「カウントダウン2015」の詳細はこちらです。
(<http://www.countdown2015mnch.org/>)

私たちの現状と課題は？

多くの進展がありました。現在でも政府に緊急の注意を必要とする「成し遂げられていない仕事」もたくさんあります。たとえばこのようなものです。

- 貧困は減少していますが、8人に1人は空腹のまま床に就いています。
- 世界を見渡すと、子どもの約4分の1は栄養不足が続いています。
- 過体重・肥満といった異なる形での栄養不良がより一般的となり、人工栄養の場合は、肥満や過体重はよりリスクが大きくなっています。
- 最近20年間で、子どもの死亡率は約40%減少しました。しかし、未だ5歳未満の子ども達が毎年約700万人亡くなっていて、それはほとんど予防できる病気によるものなのです。
- ミレニアム開発目標の各項目の達成への進展は遅く、地域により大きな格差があります。
- 5歳未満の死亡率は全体としては低下していますが、新生児死亡（生後1ヵ月間の死亡）の割合は増加しています。
- 母親の死亡率は、10万出生あたり1990年は400人でしたが、2010年は210人と減少しています。
- 開発途上の地域（特にサハラ以南のアフリカ）では、妊娠している女性の半数しか、推奨されている最低4回の出産前健診を受けていません。

【訳注】ミレニアム開発目標の訳は外務省のウェブサイトから
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs/about.html>

ラゴス(ナイジェリアの元首都)州のBabatunde Fashola知事は、ナイジェリアの高い新生児死亡率を減らすために、母親たちに母乳だけで育てることと家族計画を取り入れることを訴えました。知事によれば、ナイジェリアの新生児死亡率を減らすために母親たちが重要な役割を担えるというのです。「6カ月間母乳だけで育てて十分に間隔をあけて出産すれば、赤ちゃんが健康に育ち、人生の目的を全うできる助けになります。母乳で育てることは子どもが生き抜くための鍵であり、子どもが健康になり、脳の発達を促します。イケジャにあるラゴス州立大学教育病院のAdewale Oke 教授によると、ナイジェリアは世界で2番目に新生児死亡率の高い国であるとのこと。適切な育児(たとえば、母乳だけで育てること、予防接種を受けること、健康的な生活をおくること)によって、新生児の死亡率を下げることができます。教授は、母乳育児がうまくいくように妻を応援することを父親に要請しています。

'Nigeria: Fashola Tasks Mothers On Family Planning', 15 April 2014, see: <http://allafrica.com/stories/201404160145.html>

ミレニアム開発目標の健康分野から、私たちは何を学べるでしょう

目標(ゴール)に達することは厳しいかもしれませんが。達することもあれば、達しないこともあるでしょう。とはいえ、その過程は私たちにくつかりの教訓を与えます。ミレニアム開発目標の健康分野から、この10年余りの教訓をいくつか示します。

達成

- より高いレベルの議論が行われてきた(政治的側面を喚起)
- 草の根団体を巻き込んでいる(活発化した市民運動)
- より多くのお金が健康分野で使用可能となった(健康分野への資金参入の増加)
- 健康指標の改善(低-中所得国での健康指標の明らかな改善)

未到達点

- 貧富の差の増加(公平という視点の欠落)
- 人権という観点からの取り組みの欠如
- ミレニアム開発目標の過程がトップダウン方式
- その場しのぎの技術的な方法が推奨され、伝染病対策のみに力が注がれている
- 健康に対しても、ほかの部門間(環境、気候変動、貧困、教育、男女平等など)においても、取り組み方が断片的で連携していない

このような教訓を心にとめ、母乳育児がどのようにミレニアム開発目標と2015年以降の課題を推し進める手助けをするか、注目していきましょう。

母乳育児は赤ちゃんの命を救うばかりか、母親の健康のためにもいいのです!

専門家が勧めていること

- 出生後1時間以内に母乳育児を始めましょう。
- 生後6か月間は母乳だけで育てましょう。
- 生後6か月から適切な補完食を始め、母乳育児を2年以上続けましょう。



Iris Michelle Rüberas (フィリピン)

考えてみましょう

- あなたの国で子どもが死亡する最大の原因は何でしょうか。その根本的な理由は何でしょうか。
- あなたの国の何%の乳児が生後1時間以内に母乳育児を開始し、6か月間母乳だけで育てていますか? 最近の10年間でその割合は変化していますか?
- あなたの職場で、母乳だけで育てることの主な障壁は何ですか? 職場復帰する女性が母乳育児を継続しやすくなるような工夫をしている職場はありますか?
- 母親が赤ちゃんを母乳で育てるかどうか、そして、安全で十分な補完食を与えられるかどうか、あるいはどのように与えるのかは、社会経済的因子、商業主義や文化的圧力、養育環境といった要因に強く左右されます。その状況とは、災害などの緊急事態や慢性的に健康を脅かす状況を含みます。



Ellen Girerd-Barclay (ウガンダ)

それでは何が必要で、その理由は何でしょう

ミレニアム開発目標の達成(特に項目4と5)のためには、早期から母乳だけで育て、母乳育児を継続することがもっと必要です。母乳育児はすべての人から保護、推進、支援される必要があります。ミレニアム開発目標の過程における成功に基づいて、その至らなかった点に取り組む必要があります。それぞれの至らない点について、とりあえず1つの対応策を考えてみましょう。ここでは母乳育児に関連する対応策を!

- **公平性が欠けていた？** 社会の中で最も脆弱な立場の人々の母乳育児を保護し、支援しましょう。
- **現場の意見を汲み取ることが欠けていた？** 草の根の市民と、政策や計画の立案の中枢にかかわる人々の両方を、母乳育児の保護、推進、支援に巻き込みましょう。
- **人権という視点が欠けていた？** 人権の枠組みを母乳育児の保護、推進、支援に生かしましょう。
- **開発にかかわる他部門との統合性が欠けていた？** 母乳育児を規模の大きい開発課題と結び付けましょう。
例 貧困 ジェンダー 環境・気候変動

- **「保護」とは、**女性と家族が科学的で事実に基づく情報を得られるように保証することです。また、支援を受ける場合は、乳児用食品企業や専門家などの既得権益の影響を受けないものであるようにすることです。「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準とその後の関連する世界保健総会の決議」の実施とモニタリングは、母乳育児の保護の手助けとなるでしょう。
- **「推進」とは、**母乳育児の重要性を伝え啓発することにより、人々を行動へと導くことです。世界母乳育児週間は母乳育児の推進と多くの人々を啓発する一つの例です。
- **「支援」とは、**母親がどこにしよう、情報、熟練した臨床的な援助、カウンセリング、実践的で感情に配慮した支援を提供し、母乳育児を開始し、うまくできるようになり、継続できるようにすることです。母性保護規定があれば、働く母親が母乳育児を継続する助けになるでしょう。

母乳育児はどのように命を救うのでしょうか

生後6か月間母乳だけで育てることは(ほかのものは何も足しません)以下の事柄について、特に大切です。

- 6か月間母乳だけで育てると、5歳未満の子どもの死亡のうち、11~13%を予防できる可能性があります。
- 十分な量の安全で月齢や年齢に合った補完食は、上記に加えて、5歳未満の死亡の6%を減らすことができる可能性があります。母乳で育てられていない乳児は、母乳だけで育てられている乳児と比べ、下痢で7倍、肺炎で5倍死亡するリスクが高くなります。
- ユニセフの「世界子ども白書2012」は、最初の6か月間母乳だけで育てられた乳児は、全世界で生まれる1億3460万人のうち37%にすぎないと強調しています。このことは、ほぼ8500万人の赤ちゃんが生存したり健康的に成長したりする機会が奪われているということを示します。
- 同様に、生後6~9か月で補完食を開始した乳児は60%しかいなかったということです。このことは、補完食を始めるのが早すぎたり遅すぎたりする赤ちゃんが何百万人もいるということを示しています。
- 母乳育児が、乳児の死亡を防ぐもつとも効果的な方法であることは何度も繰り返し示されています。子どもの健康と発達に重要な役割を果たし、母親の健康にも有意な利点があるのです。
- 早期から母乳だけで育てることは新生児の養育環境を改善し、乳児死亡の中で大きな割合を占める新生児死亡を減少させます。

より大きな規模の開発課題との連携

貧困と母乳育児

母乳育児の保護、推進、支援は、ミレニアム開発目標の第一番目の目標である貧困との闘いという点でも重要です。母乳育児は、社会の中で最も脆弱で無力な構成員、つまり乳幼児に安全で持続可能な食物と栄養、健康と心の安定を提供することで、極度の貧困からの悪影響を減らします。国によっては家計の3分の2以上を消費する乳児用人工乳のような母乳代用品に比べ、母乳育児では、費用が大幅に軽減されます。人工栄養の場合、母親は人工乳だけではなく、哺乳びん・人工乳首・消毒のための器具や燃料が必要ですし、子どもが病気になった時には交通費と医療費がかかります。

質問:あなたの国では、6か月間乳児用人工乳を購入すると費用はいくらかかりますか? あなたの国の食糧問題では、母乳育児のことも考慮されていますか?

人権としての母乳育児

母乳育児の支援や保護はとても大切なことなので、複数の人権関連文書に明記されています。子どもの権利条約では、か

なう限りの最高水準の健康が子どもの権利であり、その基盤に母乳育児があることが詳述されています。母乳育児に好ましい状況を作り、障壁を除くことは政府や社会の義務とされています。障壁には母乳代用品や哺乳びん、人工乳首といった「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準とその後の世界保健総会の関連決議」で言及されている物品のすべての形態の宣伝活動も含まれます。母乳育児が女性の権利であるという観点から、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)」は、政府に「家庭についての教育に、社会的機能としての母性についての適正な理解を確保すること」を命じています。これには、妊娠または母性休暇を理由とする解雇から女性を保護することや、妊娠、分娩および産後の期間中の適切なサービスを受けることができること、並びに「妊娠および授乳期間中の十分な栄養」を確保することが含まれます。それゆえ、わたしたちは人権の枠組みという観点から政府に働きかけることができます。政府が人権に関する文書に記載された義務を果たすために、採用すべき実践的な手段を提案するのです。子どもの権利条約と女子差別撤廃条約の実施を監督している関連条約機関は、母親と赤ちゃんが母乳育児をする権利の行使も保証し、政府の措置が不十分な場合は適切な勧告を作成することになっています。

質問:あなたの国や地域の行政は、母親と赤ちゃんが母乳育児をする権利を保護し、尊重し、充実させる措置を充分にとってきましたか? 充分でなかった場合、何が欠けていますか?

持続可能な環境という課題

未来の世代に関係しているのは気候変動問題です。これは持続可能ではない産業形態、農業形態、また生活様式によって引き起こされています。若者と祖父母の世代も、母乳育児の保護、推進、支援に巻き込む必要があります。母乳育児を保護、推進、支援することが、未来の世代のためにもなるのです。母乳育児は「緑の」代替手段であり、政府や政策立案者は、哺乳びんによる授乳の割合を減らすための適切な手段を講じることに確信を持たねばなりません。人工乳は環境に対し負の影響をもたらす、母乳育児は環境保護に効果的なのです。母乳育児は「環境にやさしい」代替案となります。政府や政策立案者を説得して、哺乳びんによる人工栄養法の割合を減らすための十分な手段を講じさせねばなりません。人工栄養法は環境に対し負の影響をもたらしますが、母乳育児は環境保護に効果的だからというのが説得の理由になります。

質問:あなたの国では、母乳育児が「環境にやさしい」ものであることを開発するために、政府などの機関がどのように取り組んできましたか? あなたの国の政府は、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」を完全に実施していますか?

ジェンダーと母乳育児

国際保健と栄養の分野では、男女(ジェンダー)間の力学は健康状態と栄養状態の主要な決定因子であり、ミレニアム開発目標にも影響していることが認識されています。ジェンダーとは社会的に作られた男女の違いや関係性です。それらは学習されるものであり、生物学的なものではありません。ジェンダーの多様性は広く、社会や文化によりさまざま、時代によっても変化します。「ジェンダー」を表す言葉は、男らしさや女らしさを特徴づけるために使われます。生活のすべての局面と社会的文脈において、男らしさや女らしさという特徴が、男女

の役割、責任、制約、機会、ニーズに影響を及ぼします。ジェンダーの不平等や、それを維持しようとする強制と暴力は、乳児死亡率と妊産婦死亡率、母親の抑うつや産前産後ケアに、直接的な影響を及ぼします。これは、家庭内での母乳育児の実践に直接の影響を及ぼします。父親は、家庭内や公共の場での母乳育児支援において直接的な役割を担います。

質問:6か月間母乳だけで育てること、2年かそれ以上母乳育児を続けることに母親が自信を持つため、父親が支援できる方法にはどのようなものがありますか? 祖母が自分の娘や義理の娘の母乳育児を支援することに結びつく方法はどのようなものがありますか?

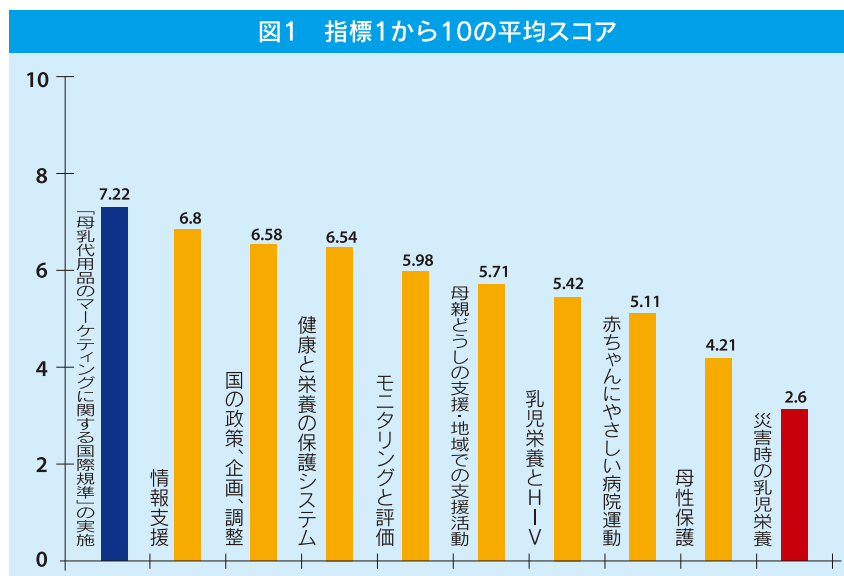
行動への包括的な枠組み

最適な母乳育児のための包括的で国際的な政策の枠組みは、すでにあります。「乳幼児の栄養のための世界的な運動戦略」(世界保健総会決議 55:25 2002年)は、いくつかの国際的な政策手段に根差し、一連の手引きや実行のためのツールもあります。しかしながら、この政策の枠組みの実行を広めるために必要な、人的および物的資源を供給する国際的なコミットメントが欠けているのです。その上、乳幼児の栄養を取り扱う多くの団体は企業から資金提供されていて、利益相反を生み出す可能性があります。

利益相反に関して詳しくは以下のサイトを参照ください。
<http://www.ibfan.org/art/538-1.pdf>

世界母乳育児動向イニシアチブ(WBTi)は「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」の実施に関する10の領域の政策とプログラムにおけるギャップを51の国で報告しています。「運動戦略」すべてを完全に実施している国は51カ国中一つもありません。平均のスコアは「災害時の乳児栄養」の2.56から、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準の実施」の7.21でした。WBTiの国別報告書は世界保健機関(WHO)において「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準の国別の実施状況」の報告書の元資料に使用されています。2011年の状況報告書(以下参照:
http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/85621/1/9789241505987_eng.pdf)。

図1 指標1から10の平均スコア



ミレニアム開発目標に関連して母乳育児を保護、推進、支援するために、 何ができるでしょう？

チームで活動しましょう！：味方やチームメイトを見つけ、共通のゴールを設定し、役割を決め、必要であればトレーニングのためのプログラムを準備し、個別のニーズを満たし、戦略を準備し、あなたの計画を実行し、進展を評価し、バックアップの計画を立て、成功を祝い、後に続く行動のための教訓とするように事後査定をしましょう。

力を合わせましょう

- 味方になりそうな人を見つけましょう。
- 人権、持続可能な開発、環境/気候変動、ジェンダー、勤労環境（例えば労働組合）などの問題に取り組んでいるほかの団体と協働しましょう。
- 共通の課題がなにかを、見つけ出しましょう。

準備しましょう

- 自分と自分のチームのための準備をしましょう。
- 地域が母乳育児の分野でどのような状況なのか確認しましょう。
(村、町、都市、州、国、地域)
- 既存のデータベース、アンケート調査、動向調査、女性へのインタビュー、保健医療従事者などを活用しましょう。
- ギャップを分析し、問題点を理解しましょう。



ゴールを設定し、行動計画を立てましょう

活動場所ごとの行動計画のアイデアです。

家や地域レベル

- 母乳育児や乳幼児の栄養の問題をあなたの地域の課題とするよう、若者と祖父母の世代を巻き込んで、キャンペーンを立ち上げましょう。これらの世代へはどのような項目が興味を引くでしょう？



- 地域で決定権を持つ人や雇用者に、どのように具体的に母乳育児を保護、推進、支援しているか尋ねる手紙を書きましょう。
- 母親どうしの支援グループは、ほかの市民団体を参加するよう招いて、テーマを決めたイベントを組織することができます。糖尿病や肥満、高血圧といった慢性疾患や、食や栄養に興味のあるグループとつながりましょう。母乳育児はこれらの疾患を予防するのに役に立ちます。ピアカウンセリングのグループに参加しましょう。自分自身も勉強し、ほかの人をエンパワーしましょう。



健康保健分野での活動

- ベテランから新人それぞれに向けた健康保健従事者をトレーニングする講義やセミナーを組織しましょう。
- 新しくなった「赤ちゃんにやさしい病院運動」と「お母さんにやさしいケア」を地域の保健医療施設に広めましょう。
- 病院や研究における企業の影響を抑制する方針が確実に存在するようにしましょう。
- 人道支援機関と協働し、難民キャンプや、HIV/エイズに脅かされている共同体といった脆弱な人々にも母乳育児を保護、支援することを保証してもらいましょう。
- 世界母乳育児週間2014のテーマのプレスリリースを送り、地域のメディアを巻き込みましょう。



職場での行動

- 国際労働機関条約(ILO)C183に合致する母性保護の法令や政策の改善を推進しましょう。

- ・「お母さんにやさしい職場」を目指しましょう。母乳育児休憩、職場の保育所、職場での搾乳施設を提唱しましょう。
- ・労働組合や非正規労働組合と協働し、母性保護を、出稼ぎ労働者、農業従事者などの女性が働いている非正規部門にも拡充できるように働きかけましょう。

若者の行動

- ・学校や若い人の団体が、テーマを決めたイベントでミレニアム開発目標や母乳育児をもっと学べるようにしましょう。
- ・母乳育児やミレニアム開発目標についての劇をしたり、マルチメディアを用いたプロジェクトを実行したりしてみましょう。
- ・母乳育児を祝う物語や詩を作りましょう。
- ・母乳育児が実際にチームの力でなされるものであるという状況を描いたフォトコンテストを企画しましょう。
- ・母乳育児に関連する、フラッシュモブ*や創造的な活動で公共に訴えましょう。

【訳注】Wikipediaより:フラッシュモブ(英: flash mob)とは、インターネット上や口コミで呼びかけた不特定多数の人々が申し合わせて雑踏の中の歩行者として通りすがりを装って公共の場に集まり前触れなく突如としてパフォーマンス(ダンスや演奏など)を行って周囲の関心を引きその目的を達成するとすぐに解散する行為

国際的な行動と国内での行動

- ・WBTiの尺度やほかの尺度を用いて、乳幼児の栄養に関する政策や実践の状況を国レベルで評価しましょう。
- ・地域で母乳育児の障壁を見つける研究や調査を指揮しましょう。
- ・法改正や重要な母乳育児プログラムを提唱する、国内でのセミナーを組織しましょう。
- ・母乳育児についてのもっと強力な政策を提唱しましょう。
- ・「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」を地域でモニタリングしましょう。
- ・母乳育児や2015年以降の乳幼児の栄養を含んだ共通の議題について、国際的な非政府組織(NGO)やその支援機関(プラットフォーム)と協働しましょう。

ミレニアム開発目標について もっと知りたい方のために

- ・ミレニアム開発目標カウントダウンや直面している課題について、詳しくは以下のサイトを参照
<http://www.countdown2015mnch.org/documents/2012Report/2012-Complete.pdf>
- ・改善している地域や国から教訓が学べます。そうした国については以下のサイト参照
<http://www.countdown2015mnch.org/reports-and-articles/2013-report>
- ・目標に達しなかった地域(サハラ以南のアフリカや南アジア)の68カ国に的を絞ります。そうした国についての情報は以下のサイト参照
<http://www.countdown2015mnch.org/country-profiles>

より深い理解のために

- ・「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」JALC翻訳2004
<http://jalcshop.shop26.makeshop.jp/>

- ・WHO, UNICEF, AED and United States Agency for International Development, 'Learning from Large-scale Community-based Programmes to Improve Breastfeeding Practices', Report of 10-country case study, WHO, Geneva,2008. See:
www.who.int/nutrition/publications/infantfeeding/9789241597371/en/
- ・UNICEF and Academy for Educational Development (AED), Infant and Young Child Feeding Programme Review: Consolidated report of six-country programme review, UNICEF, New York, 2010. See:
http://www.unicef.org/nutrition/files/IYCF_review_6_country_consolidated_report_Sept._2010.pdf
- ・United Nations. The Millennium Development Goals Report 2012, United Nations, New York 2012. See:
<http://www.un.org/millenniumgoals/pdf/MDG%20Report%202012.pdf>
- ・UNICEF Landscape Analysis, 2013. See:
http://www.unicef.org/eapro/breastfeeding_on_worldwide_agenda.pdf
- ・“The status of policy and programmes on infant and young child feeding in 40 countries”, article by IBFAN, published in the journal 'Health Policy and Planning' 2013 available at:
<http://heapol.oxfordjournals.org/content/28/3/279.-full.pdf>
- ・“Protection, Promotion, and Support and Global Trends in Breastfeeding”, Chessa K. Lutter and Ardythe L. Morrow, in 'Advances in Nutrition' 2012), available at:
<http://advances.nutrition.org/content/4/2/213.full.pdf+html>
PAHO WBW 2012 concept document available at:
http://www.worldbreastfeedingconference.org/images/128/WorldBreastfeedingWeek_Eng.pdf
- ・See WABA's 'The Earth - Our Mother - is in crisis!' poster which stresses how 'Over 20 years of evidence has shown how infant formula production, packaging and use are adding to this crisis!' at:
<http://www.waba.org.my/pdf/rio20poster-2012.pdf>;
and <http://www.waba.org.my/images/mother-earth-a4.-jpg>

もっと学びたい方のために

- ・子どもの権利条約(邦訳全文)
http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig_all.html
- ・女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女性差別撤廃条約)(邦訳全文)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/josi/>
- ・国際労働機関 条約183
2000年の母性保護条約(第183号)(邦訳)
http://www.ilo.org/tokyo/standards/list-of-conventions/WCMS_239185/lang--ja/index.htm
- ・母乳代用品のマーケティングに関する国際規準(邦訳全文)
http://www.jalc-net.jp/dl/International_code.pdf
- ・World Breastfeeding Trends Initiative (WBTi):
<http://www.worldbreastfeedingtrends.org/>
- ・赤ちゃんにやさしい病院運動
<http://www.who.int/nutrition/topics/bfhi/en/>

母乳育児支援ネットワーク(BSNJapan) 発行・販売資料のご案内



- 母乳育児支援ネットワーク
10周年記念誌
1,500円 2010年
A4版 122ページ

WABAパンフレット
1998～2009完全収録
BSNの10年間の歩み
ほか



- WABA YOUthパンフレット
母乳で子育て
若い私たちは行動する
ことができます!
100円 2010年
A3 六つ折り 第2版
翻訳 本郷愛実(大学生)

若い人に母乳育児のよ
さと大切さをアピールし
ています。



- 世界母乳育児週間
2013年パンフレット
日本語版
母乳育児支援
お母さんに寄り添って
150円
A4判 8ページ



- 祝 世界母乳育児週間
20周年!
2012年パンフレット
日本語版
母乳育児支援の
歩みを学び、
未来をはぐくもう
150円
A4判 8ページ



- 世界母乳育児週間
2011年パンフレット
日本語版
コミュニケーションで
広げる、伝え合う、
母乳育児
150円
A4判 8ページ



- 災害時の
母乳育児相談
～援助者のための手引き～
第3版 2011年
500円(送料込み)
A5判 48ページ

製作:災害時の母と子の
育児支援
共同特別委員会

資料1部の場合は、送料+梱包料で100円。各資料1部ずつの場合は、送料+梱包料200円。重さによって変わります。
総額1万円以上のお申し込みについては、日本国内の送料が無料になります。

翻訳・発行:母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)

このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。

日本語訳の転載、複写を希望される場合は、必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。

問い合わせ先 infoobsn1@gmail.com <http://www.bonyuikuji.net>

〈理事名〉[●は翻訳担当]

- 多田香苗(代表)、稲葉信子、入部博子、奥起久子、●小野田美都江、小竹広子、●瀬尾智子、高橋有紀子、西田真奈美、
- 長谷川万由美、●引地千里、福原敦子、●本郷寛子、三浦孝子、森あさよ、涌谷桐子、柳澤美香、吉澤志麻、渡辺和香

BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。

謝辞

WABA would like to thank the following for reviewing, drafting and providing inputs towards the final WBW Action Folder: Doraine Bailey, Anne Batterjee, Johanna Bergerman, David Clark, JP Dadhich, Rukhsana Haider, Amal Omer-Salim (Key Writer), Regina Da Silva, Miriam Labbock, Juliana Lim Abdullah, Mimi Maza, and Felicity Savage; as well as Lida Lotska, Ted Greiner, Andre Nikiema, Anna Coutsoudis, Rachel Musoke, Shera Lyn Parpia and Asha Benakappa for their feedback. Designed by: C-Square Sdn Bhd. Produced by: Jennifer Mourin. Printed by: JUTAPRINT, Penang.



世界母乳育児行動連盟(WABA)は、世界規模で母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の世界的なネットワークです。WABAの活動は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク(連結)」、「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。WABAの現在の中心となる仲間はすべて、主要な国際的母乳育児支援団体でもあります。母乳育児医学アカデミー(ABM)、乳児用食品国際行動ネットワーク(IBFAN)、国際ラクテーション・コンサルタント協会(ILCA)、ラ・レーチェ・リーグ・インターナショナル(LLLI)、ウェルスタート・インターナショナル(WI)。WABAは、ユニセフ(国際連合児童基金)の諮問資格を有し、また、国連経済社会理事会(ECOSOC)の特殊協議資格をもつNGOです。

WABAはいかなる形でも、母乳代用品、関連する器具や補完食を生産する企業からの資金援助はお断りしています。WABAは世界母乳週間の参加者全員が、この倫理上の立場に従い、これに敬意を払ってくださるようお願いしています。

翻訳発行 2014年10月
定価 ¥150(特別価格)

母乳育児支援ネットワークは、WABA(世界母乳育児行動連盟)を日本で紹介するとともに、日本での母乳育児を支援する活動をおこなうことを目的として2000年に設立された非営利団体です。WABAの支援団体として登録されており、母乳育児支援に関心のある方の参加と協力をお待ちしております。

入会希望の方は、次の事項を振込用紙の通信欄にご記入のうえ、年会費(3,000円)をご送金ください。お名前・ご住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・所属や母乳育児とのかかわりなど。

■会員特典

- 入会時に刊行物を進呈します。
- 毎年のパンフレット日本語訳を送付します。
- 資料購入の際の割引制度があります。
- 会員向けメーリングリストに登録できます。

送金先: 郵便振替口座 00110-2-611471
加入者名 母乳育児支援ネットワーク